

口コミも考慮したどんな動機付け情報が誰に刺さるのかの基礎分析

中島隆汰¹⁾ 田中皓介²⁾ 寺部慎太郎¹⁾ 柳沼秀樹¹⁾ 海野遥香¹⁾

1) 東京理科大学 2) 京都大学

序論

背景1

行動変容のための様々な動機付け情報の開発

- 環境負荷が小さい
- 事故リスク
- 健康促進に繋がる
- クルマの維持費
- 地域経済帰着率



背景2

- 個人が情報発信できる時代
- 価値観の多様化(?)
- 「口コミ」への期待

目的

- どんな情報が誰に届きやすいのか
- 口コミ意図にも着目

既往研究

MM動機付け情報の比較

藤本宣, 谷口綾子, 谷口守, 藤井聡: モビリティ・マネジメントにおける動機付け効果の計測に関する研究, 土木学会論文集D3 (土木計画学), Vol.72, No.5 (土木計画学研究・論文集第33巻), 1321-1, 1330, 2016.

- 14種類の動機付け情報に対する「心の変化尺度」を測定
- 様々な個人属性との関連を分析

TFP事例のメタ分析

鈴木 春菜, 谷口 綾子, 藤井 聡: 国内TFP事例の態度・行動変容効果についてのメタ分析, 土木学会論文集D, Vol.62, No.4, pp.574-585, 2006.

- TFPの国内事例31件をメタ分析
- 情報の違いによる有意差は検出されず
- 手法としては「目標設定」が有効

防災教育の波及における口コミ

金井昌信, 片田敏孝, 望月準: 土砂災害教育のあり方とその効果・波及に関する研究, 土木計画学研究・論文集, Vol.23, pp.335-344, 2006.

- 広報やチラシに加えて、地域住民間の口コミ周知の有効性を検証
- 意識, 行動の両面で良好な変化あり

調査概要

- Webアンケート (楽天インサイト)
- 2022年1月12日~14日
- 37道県 (公共交通分担率上位10都府県以外)
- 有効回答数: 500ss
- 年齢5水準: 20代~60代
- 性別2水準: 男・女

質問項目

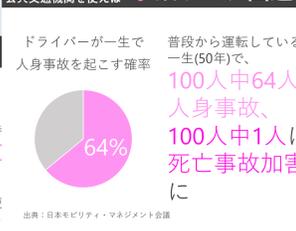
- 身長/体重/家族構成/年収/交通頻度/運動・飲酒習慣
- BIG5/ソーシャルキャピタル/地域愛着/社会志向性/利己主義人間観
- 各動機付け情報への反応
- 口コミ動機 etc

結果

クルマ利用を減らして環境保護につながる



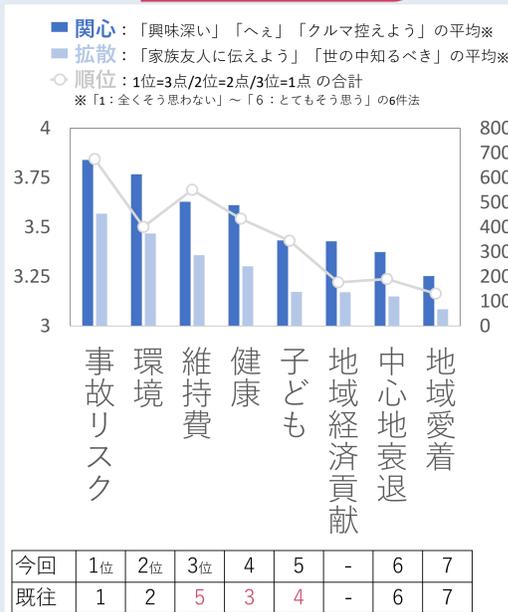
クルマ利用を減らして事故リスク回避



クルマ利用を減らして健康増進に



印象ランキング



で、どれが効くの？

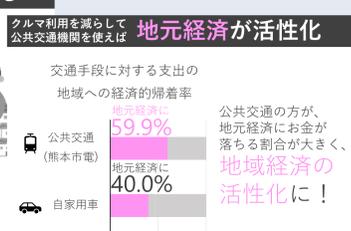
クルマ利用を減らして子どもが健全に成長



クルマ利用を減らして地域愛着が高まる



クルマ利用を減らして地元経済が活性化



分析

心が動きやすい人の特徴

	今回	既往
年齢 (高い)	○	○
BMI (低い)	○	○
年収 (低い)	○	×
飲酒習慣 (-)	×	×
運動習慣 (高い)	○	○
クルマ習慣 (高い)	○	-
社会資本SC (高い)	○	○
地域愛着 (高い)	○	○

※「心が動きやすい群」と「動きにくい群」で有意差の有無

心の動きの回帰分析

変数	環境	維持費	事故リスク	健康	子供	中心市街地衰退	地域愛着	地域経済貢献
TIP1_外向性								
TIP1_感情性								
TIP1_動機性								
TIP1_神経症傾向								
TIP1_開放性								
ソーシャルキャピタル								
地域愛着								
持続性尺度								
社会志向性尺度								
利己主義人間観								
介入の必要がある高齢者(1人だけ)								
介入の必要がある高齢者(2人以上)								
介入の必要がない高齢者(1人だけ)								
介入の必要がない高齢者(2人以上)								
18歳以上の子(1人だけ)								
18歳以上の子(2人以上)								
18歳未満の子(1人だけ)								
18歳未満の子(2人以上)								
その他								
同僚なし								
地域に本社のある企業の地元支社								
地元企業								
個人事業主(専業主婦)								
主婦/専業主婦								
学生								
年金								
無職								
BMI								
個人年収(百万円)								
クルマの利用頻度								
公共交通の利用頻度								
運動をする頻度								
お酒を飲む頻度								
性別(男/女)								
年齢								
地域R2								

口コミ動機



考察

- 「意識」だけでなく「行動」の検証も必要
- 長期的な効果が計測も必要
 - ex. 事故で脅してもすぐ忘れる?
- 回答負荷が高く差が出にくい
- 情報の「見せ方」の影響も想定される
 - 既往研究と似たような結果であり一定の信頼
- 情報の更新の必要性
 - 特に事故リスクなど
- 「環境」意識の動機付け効果の追加検証
 - 利己的動機付けが働きそうだが「環境」だけイレギュラー

